

授業概要

心理学において、調査を行う者はもちろん、文献を購読する上でも、統計に関する基本的知識が必要となる。本講義では、心理学で用いられている様々な統計手法のうち、多変量解析の一部(回帰分析・分散分析・因子分析)を紹介するとともに、実習を通じて統計ソフトの基本的な操作方法についても解説する。なお、心理統計に関する基本的知識を習得していることを前提とした講義内容であること、一部内容に実習を含むことから、履修に際しては下記注意事項を必ず確認すること。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	心理統計の基礎① 尺度水準・代表値と散布度
第 3 回	心理統計の基礎② 推測統計と t 検定・相関係数・カイ二乗検定
第 4 回	中間試験とこれまでの復習
第 5 回	関連を調べる分析手法① 回帰分析の考え方
第 6 回	関連を調べる分析手法② 重回帰分析に関する基本的な考え方
第 7 回	関連を調べる分析手法③ 重回帰分析の実習とレポートの作成
第 8 回	差を調べる分析手法① t 検定の分析の実際
第 9 回	差を調べる分析手法② 一要因分散分析の考え方
第 10 回	差を調べる分析手法③ 二要因分散分析の基本的な考え方
第 11 回	差を調べる分析手法④ 分散分析のデータ分析と図表の作成
第 12 回	まとめる分析手法① 因子分析に関する基本的な考え方
第 13 回	まとめる分析手法② 因子分析に関するデータ分析と結果の読み取り
第 14 回	応用編：多変量解析を組み合わせる 因子分析と重回帰分析を組み合わせたデータ解析
第 15 回	まとめ 講義の振り返りと扱わなかった分析法の紹介
第 16 回	期末試験

※受講者の人数・理解度・進度に応じて一部変更を行う場合がある。

到達目標

- ①心理学研究において頻繁に用いられる各種統計手法について、その基本的な考え方を理解する。
- ②解析ソフトを利用して基本的な分析を実施し、その結果をまとめることができる。

履修上の注意

- ・「心理学概論」「心理学研究法」「心理学統計法Ⅰ」を受講済みであり、その内容を十分理解していること。
 - ・調査とデータ分析に関する基本的な知識と技能を習得することを目指すため、意欲を持って受講すること。
 - ・ワープロソフト（Word）と表計算ソフト（Excel）について、基本的な使い方をマスターしていること。
 - ・本講義は実習を多く含むため、大幅な遅刻・早退、その他受講態度に問題がある者は出席とみなさず、退室を求める。
 - ・本講義に関連して、心理学に関する調査や実験の協力を依頼する可能性がある。
 - ・その他の注意事項について初回の授業時に伝えるため、**初回授業には必ず出席すること。**
- ※受講希望者多数の場合は初回講義時に受講者の選考を行う。この場合、初回欠席者の受講は認めない。

予習復習

【予習】講義開始前に「心理学統計法Ⅰ」の内容を必ず振り返っておくこと。

【復習】多様な分析手法を順次紹介していくため、「どのような時にどの分析を行うか」について、学習後に必ず整理しておくこと。

評価方法

中間試験(約 30%)と期末試験(約 50%)、複数回提出を求めるレポート(約 20%)を総合して評価を行う。

テキスト

- ・テキストは指定しないが、下記書籍を中心に、適宜参考書を紹介する。
小塩真司 (2011). SPSS と Amos による心理・調査データ解析 (第 2 版) 東京図書